

令和5年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立金立特別支援学校	
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 重点取組に対しての成果指標はどれも達成できており、各項目に対しての評価はすべてA評価となった。 肢体不自由単位数として、障害の程度が重い児童生徒が増えている中で、豊かな人生の実現や社会参加ができる児童生徒を育成するために、教職員一人一人の専門性をどのように活かしていくかは、今後も学校としての大きな課題である。 コロナ禍ではあるが、校内での学部間をはじめ、地域とのつながりはとても重要であることから、様々な形で交流及び共同学習や校外学習、就業・施設体験等が行えるよう、引き続き模索していく必要がある。 今後も個々の児童生徒の実態に応じた支援機器やICT機器等の活用を推進するとともに、より一層教職員の指導力向上を図ることが必須となる。 	
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の一人一人の状況(障害の状態や発達段階、特性)に応じた教育を実施する。 児童生徒が、「明るく」「正しく」「たくましく」生きていく力を育成する。 	
3 本年度の重点目標	<p>「つながれ未来 — 明るく、正しく、たくましく」</p> <ul style="list-style-type: none"> ①児童生徒の主体性を尊重しながら、個に応じた教育を充実させる。 ②自立と社会参加に向けて、児童生徒の夢や希望を大切に教育を充実させる。 ③健康・安全教育を進めるとともに、思いやりや豊かな心を育む教育を充実させる。 	

4 重点取組内容・成果指標		中間評価		5 最終評価		主な担当者	
(1)共通評価項目		中間評価		最終評価			
評価項目	取組内容	達成指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果		評価
●学力の向上	●児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着	○児童生徒の実態把握を行い、学習指導要領の各教科の内容を踏まえた学習内容を設定し、学力の定着につながる授業ができたと回答する職員が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に関する複数の職員で客観的な実態把握を行う。 学習指導要領に示された各教科の内容を踏まえた学習内容を設定して個別の指導計画を作成し、個に応じた指導支援を行う。 学習グループでPDCAサイクルにより授業を見直し、授業改善につなげる。 個人懇談や面談時に学習の内容や児童生徒の成長や様子について、説明を行う。 				教務部
	○教育の質の向上に向けた個々の児童生徒の実態に合わせたICT利活用教育の充実	○アンケート調査でICT機器を利活用し、効果的な授業の促進ができたと回答する職員、保護者が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末、電子黒板等をリモート授業や集学活動などで活用する。 児童生徒の実態に合わせて、ICT利活用を推進する。 				学習・情報部
	○児童生徒の夢や希望を尊重しながら、個に応じた進路指導の充実	○進路についての意見を十分に聞き、適切な指導がなされていると回答する保護者が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> 教職員を対象とした進路研修会や保護者を対象とした進路説明会を行う。 個に応じた資料を必要に応じて作成し、職員、保護者へ提供する。 				進路指導部
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心の教育活動や生命を尊重する教育に取り組むことができていると回答する職員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育や特別活動、学校教育全体で、思いやりや豊かな心を育む教育活動の充実を図る。 年間1回以上の交流及び共同学習や学校行事等で、他者と関わる経験や体験の充実を図る。 児童生徒の呼称等、児童生徒への職員の言動に関する意識向上を図るため、教務部・生徒指導部で連携し、アンケート調査を行う。 児童生徒会活動の一環として、嬉しかったことや友達の良い所をカードに書き出し、「えがおの木」に貼り付け、自他を尊重する心や思いやりの心を育む。 				教務部 (人権・同和教育担当) 生徒指導部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について、取り組むことができていると回答する職員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活調査を毎月行う。 いじめアンケートを年間2回実施し、教職員間で情報共有する。 児童生徒会役員会で、毎回、児童生徒一人一人が頑張っていることを取り上げ、互いのことを尊重し、認め合う雰囲気を作っていく。 いじめに対する教職員の意識啓発のため、研修、会議を年間1回以上行う。 				生徒指導部
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれて」と思うと回答した児童生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒75%以上	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導の具体的な学習内容を設定する際、「主体的に取り組む」「自立活動を学ぶ意欲について考える」などの配慮事項を考慮して自立活動指導計画を作成する。 児童生徒の資質・能力を育成授業づくりに関する校内研究の実施。 				自立活動部 研究部
●地域支援	●望ましい生活習慣の形成	●児童生徒の歯と口の健康意識を向上させる取り組みができていると回答する保護者、職員が75%以上	<ul style="list-style-type: none"> 歯科健康診断前にアンケートを実施し、歯科に関する困りごとや定期検診状況把握する。 歯科健康診断時、結果だけでなく指導ポイントも確認し、治療が必要な児童生徒本人・保護者・職員に伝え受診勧奨を行う。 定期健康診断の結果や日常の歯磨きの様子や状況などから口腔ケアに対する課題を把握し、課題に即した歯科保健指導や歯科巡回を1回以上学校歯科医や職員、家庭等と連携して行う。 保健だよりや掲示物に歯科保健指導に関する記事を掲載。 				保健部
	●効果的な地域支援に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実	○巡回相談等におけるセンター的機能報告の文書案内や、校内研修及び公開研修等を実施し、専門性の向上につながったと回答する職員が80%以上	<ul style="list-style-type: none"> 校外支援として巡回相談の実施、電話相談や学校見学等の対応を行う。 校内支援として教育相談、他校分掌との連携協力、他特別支援学校の巡回相談や専門家連携を行い、教職員の専門性の向上を図る。 公開研修会の計画や案内をし、専門性向上のための理解啓発を図る。 				相談支援部
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の定時退勤日を完全実施、月3回の定時退勤推進日についても、定時退勤について強く推奨していく。 出退勤システムで各人の勤務状況を把握し、意識啓発を図る。 休取得をしやすい行事計画の見直しを行い、啓発を図る。 業務分担を見直し、業務の効率化と平準化を図る。 			
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育							
5 総合評価・次年度への展望							